

修士論文（要旨）

2019年1月

きょうだい関係と親の養育態度が青年期のパーソナリティに及ぼす影響
-日本と中国における調査-

指導 山口 創 教授

心理学研究科
健康心理学専攻

217J4052

王 琳申

Master' s Thesis(Abstract)
January 2019

The Effects of Parent' s Attitude and the Relationship of
Siblings in Adolescence:Comparing between Japan and China

Linshen Wang
217J4952
Master' s Program in Health Psychology
Graduate School of Psychology
J.F.Oberlin University
Thesis Supervisor: Hajime Yamaguchi

目次

第1章	序論	1
	1. きょうだいについて	1
	2. 孤独感について	3
	3. 自尊感情について	3
	4. 性格について	4
	5. 親の養育態度について	5
第2章	研究1 中国の大学生におけるきょうだい有無ときょうだい関係	7
	1. 研究目的	7
	2. 対象と方法	7
	1) 調査対象	7
	2) 参加者について	7
	3) 調査方法	7
	4) 調査時期	8
	3. 使用尺度	8
	4. 倫理的配慮	10
	5. データ分析	10
	6. 結果	11
	1) 信頼性の検討	11
	2) きょうだい状況の違いに関する検討	12
	① 孤独感	12
	② 自尊感情	12
	③ 性格	13
	④ 養育態度	15
	⑤ 心理的距離	16
	3) 心理的距離の違いによる検討	17
	① 孤独感	17
	② 自尊感情	17
	③ 性格	18
	④ 養育態度	19
	4) 考察	20
第3章	研究2 日本の大学生におけるきょうだい有無ときょうだい関係	23
	1. 研究目的	23
	2. 対象と方法	23
	1) 調査対象	23
	2) 参加者について	23
	3) 調査方法	23
	4) 調査時期	24
	3. 使用尺度	24
	4. 倫理的配慮	25

5. データ分析	25
6. 結果	26
1) きよだい状況の違いに関する検討	26
① 孤独感	26
② 自尊感情	26
③ 性格	27
④ 養育態度	29
⑤ 心理的距離	30
2) 心理的距離の違いによる検討	31
① 孤独感	31
② 自尊感情	31
③ 性格	32
④ 養育態度	33
3) 考察	34
第4章 両国の比較	36

参考文献
資料

第1章 序論

生まれてからきょうだいは私たちと共に生活し、きょうだいと共に学び成長していく。中国では一人子の割合が近30年間激的に成長していた。政策の変更により、次子を迎える家庭の増加に伴い、きょうだいに巡る問題が今注目を浴びている。

第2章 研究1 中国の大学生におけるきょうだいの有無ときょうだい関係

目的

本研究ではきょうだいの有無は青年期の人の心理的側面にどのような影響を与えているかを、自尊感情、孤独感、性格そして家庭の4側面から明らかにすることを目的にする。そして、きょうだいとの心理的距離が自尊感情や孤独感そして性格にいかなる影響を与えているか、受けた親の養育態度にいかに影響されるかを検討する。

方法

中国全省市から編入が指定される北京市の二つの大学を選び、在籍中の大学生300名を対象にしアンケート調査を行った。

結果と考察

1. きょうだいの心理的距離について

心理的距離において、長子は末子より有意に低かった。これは長子が末子より先に生まれ、他の兄弟より力を持ち、親と同じように他のきょうだいを出生からずっと見てきたのが原因だと考えられる。

2. 孤独感について

きょうだいの有無やきょうだい関係と孤独感の間に関連性が認められなかった。これは、きょうだいがなくとも、満足な仲間関係を築くことで、孤独感が軽減したと考えられる。心理的距離が遠い群と近い群の間における有意差は認められなかった。彼らが実際に感じているきょうだいとの心理的距離と求める心理的距離が一致していると推測できる。

3. 自尊感情について

自尊感情において、一人っ子、長子、末子の中に、有意差は認められなかった。自尊感情ときょうだいとの心理的距離との関係性も認められなかった。きょうだいの他、友人や同級生などとの比較も自尊感情に影響しているといわれている。本研究の結果から、中国では家庭外での比較は、家庭内きょうだい間で行う比較と自尊感情に同じような影響を持っているとも言える。

4. 性格について

一人っ子は長子と末子より外向性が低いことがわかった。これは一人っ子は幼児期にきょうだいある人より、同齡者との接触が少ないのが原因だと考えられる。末子は他の2群より開放性が低い傾向が見られた。兄・姉を有することで好奇心や想像力の育ちを妨げる恐れがあるともいえる。心理的距離が近い方が、勤勉性得点が高いとの結果が示された。

きょうだいはお互いを目標にして、自分を励み、向上心と勤勉性を育つことができたと考えられる。

5. 親の養育態度について

親の養育態度においてきょうだい状況の違いによる各因子の差は認められなかった。きょうだい間の心的距離について検討したところ、親の養育態度の拒絶因子の得点は、きょうだい間の心理的距離と正の相関がであった。親の養育態度の情緒的暖かみ因子の得点は、きょうだい間の心理的距離と負の相関があることが示唆された。そのため、親の許容は子どもの対人信頼感高まり、きょうだいを含む他人との関係形成にポジティブな影響を与えているといえる。反面、親からの拒絶あるいは言葉と行動の矛盾は、子どもの対人信頼感を低下させ、社交不安を引き起こすと考えられる。

中国で実施した本研究では、きょうだいの状況は性格に影響していることと、きょうだいとの心理的距離は出生順位、親の養育態度に影響され、性格の形成に影響していることが示された。

第3章 研究2 日本の大学生におけるきょうだい有無ときょうだい関係

目的

日本の場合、きょうだいの有無は青年期の人々の心理的側面にどのような影響を与えているかを、自尊感情、孤独感、性格そして家庭の4側面から明らかにすることを目的とする。そして、きょうだいとの心理的距離が自尊感情や孤独感そして性格にいかなる影響を与えているか、受けた親の養育態度にいかに影響されるかを検討する。

方法

桜美林大学で、教員の協力を得て、授業終了後に、アンケートを履修者153名に配布し、次の週に回収した。

結果と考察

1. 心理的距離について

末子、長子の両群間の心理的距離の差を比較した結果、2群間の有意差は認められなかった。これは出生順位に関わらず、長子と末子は同じようにきょうだいとの関係を築けているといえる。

2. 孤独感について

一人っ子、末子、長子の三群の間における孤独感の有意な得点差が認められなかった。心理的距離近いと遠い2群の間も孤独感の有意な得点差も認められなかった。このことから、孤独感はきょうだい有無や出生順位に直接左右されるのではないということがわかった。大学生の生活重心は学校にあり、この段階で家庭より学校での社交が主になっていると考えられる。

3. 自尊感情について

一人っ子、末子、長子の間における有意差が認められなかった。心理的距離が近い群が遠い群より自尊感情における得点が有意に低かった。本尺度では得点が低いほど自尊感情が高い。故に、きょうだいとの親密な関係は自尊感情を高まること分かる。

4. 性格特性について

開放性において、きょうだい状況の違いにおける有意な得点差が認められなかった。外向性において一人っ子は長子、末子より得点が有意に低いことは分かった。心理的距離の差による性格の比較では、外向性において、きょうだい間心理的距離が近い方が開放性得点が高いことが認められた。協調性においても、心理的距離と負の相関性が示された。これは、きょうだいとの付き合いで葛藤などを上手く対処できる人は、よりポジティブな性格になりやすいともいえる。

5. 親の養育態度について

ひいき因子において、長子は末子より得点が低い傾向が認められた。長子は独占した親の寵愛が次子の誕生によって部分的に奪われたことによって、落差を感じていると考えられる。

情緒的暖かみ因子得点は、きょうだい間の心理的距離と負の相関性があることが認められた。包容力のある家庭環境が、家庭メンバー間の距離を縮めたと考えられる。

第4章 両国の比較

中国での調査対象の 54.0%が一人っ子に比べ、日本の調査対象の一人っ子は 19.7%であった。これは中国で長い間実施されていた出産政策の影響を受けていることが原因である。きょうだいの有無は両国とも孤独感、自尊感情と関係していなかった。中国ではきょうだいと生活した経験を持っていないので、きょうだいがいない孤独も感じないと考えられる。性格においては、一人っ子は外向性において得点が低い傾向が両国で見られた、中国では末子の開放性が低く、日本では長子は協調性を欠けていることを示した。親の養育態度において日本で長子のひいき因子は末子より低かった。きょうだいとの心理的距離は、日本では自尊感情と負の関係性を持っていた。中国で見られなかったのは入学に伴い、比較対象は同級生に変わり、これによって、きょうだいからの影響が弱まるからだと考えられる。性格において、親密なきょうだい関係は、中国では勤勉性、日本では外向性と協調性を高まることを示した。両国とも情緒的暖かみの高い家庭で育ったきょうだいがより親密な関係を持っているとみられた。

参考文献

- 阿久井喜三郎 (1996). 家族関係と性格との統計的研究-3- 茨城大学教育学部紀要(12), 235-251.
- 天富美弥子 (1984). 同胞葛藤に関する研究—一次子出生による長子の反応と親の養育態度との関連—大阪教育大学紀要, II, 32, 145-157.
- Baumeister RF・Smart L・Boden JM (1996). Relation of threatened egotism to violence and aggression: the dark side of high self-esteem. *Psychological Review*, 103, 5-33.
- Dan Russell・Letitia Anne Peplau・Mary Lund Ferguson (2010). Developing a Measure of Loneliness *Journal of Personality Assessment*, 42, 290-293.
- 鄧麗芳・徐慊・鄭日昌 (2006). 大学生気質類型、父母教養方式与孤独感的關係研究 *心理發展与教育*, 3, 53-59.
- 董穎紅・陳迪・付美雲 (2018). 同胞关系对儿童青少年西里发展的影响 *中国学校卫生*, 39, 7, 1110-1114.
- Dunn, J. (1992). Sisters and brothers: Current issues in developmental research. *Children's sibling relationships: Developmental and clinical issues*, 1-17.
- 遠藤由美 (2000). 「自尊感情」を關係性からとらえ直す *実験社会心理学研究*, 39 卷 2 号, 150-167.
- 古川奈美子・北山修 (2004) 大学生における境界例心性と親の養育態度・家族の雰囲気との關係性について *九州大学心理学研究*, 5, 207-218.
- 郭志剛 (2001). 利用人口普查原始数据对独生子女信息的估计 *市場与人口分析*, vol7, no. 1, 5-1.
- 顧寿全・奚曉嵐・程竈火・吳正国・王国強 (2014). *Chinese Journal of Clinical Psychology*, 22, 2, 354-356.
- 浜治世・三根久代・三根浩・松山義則 (1987) きょうだい構成および出生順位と人格変数との關係 -MMPI を用いて- *心理学研究*, 58, 2, 105-108.
- 広田千織・望月聡 (2008). 大学生における劣等感と自尊感情の関連性 *日本心理学会大会発表論文集第72回大会*, 72, 3AM171.
- 広沢俊宗 (2011) 孤独感に関する心理学的研究(1) —課題と展望— *関西国際大学研究紀要* 12, 145-152.
- 今倉茜 (2015) きょうだい関係と攻撃性の関連性について *京都学園大学人間文化学部学生論文集*, 14.
- 井上優香 (2000). 青年期のきょうだい関係とパーソナリティ *日本教育心理学会総会発表論文集第42回総会発表論文集*, 224.
- 磯崎三喜年 (2016). きょうだい関係の意味するもの *日本子ども社会学会*, 177-189.
- 加藤佳子・西敦子 (2010) 小学生の家族関係および友人関係における自尊感情と全体的自尊感情との関連 *日本家政学会誌*, 61, 11, 741-747
- Kirsten L. Buist (2010). Sibling relationship quality and adolescent delinquency: a latent growth curve approach. *Journal of Family Psychology*, 24, 400-410.

- 近藤綾香 (2009). きょうだい関係が孤独感や自尊感情に及ぼす影響について 京都学園大学人間文化学部学生論文集, 8, 66-80.
- 工藤力・西川正之 (1983). 孤独感に関する研究(I)—孤独感尺度の信頼性・妥当性の検討— 実験社会心理学研究, 22, 99-108.
- 國分康孝 (1990). カウンセリング辞典 誠信書房, 249.
- 梁英豪・蘭興妞 (2008) 青少年自尊与学業成績的關係及其对学校教育的啓示 黄石理工学院学报: 人文社科版, 25, 1, 62-64.
- 劉娅俐 (1995). 孤独与自尊, 抑郁的相關初探 中国心理衛生雜誌, 第 3 期, 115-116.
- Letitia Anne Peplau・Daniel Perlman (1982). Loneliness: A Sourcebook of Current Theory, Research and Therapy.
- 李彩娜・班蘭美・李紅梅 (2010). 大学生孤独感及其与依戀、自尊的關係 Chinese Journal Of Clinical Psychology, Vol. 18, No. 4, 514-516.
- 李彩娜・邹泓 (2006). 青少年孤独感的特点及其与人格、家庭功能的關係 陝西師範大学学报, 35, 1, 115-121.
- 李金德 (2013). 中国版 10 项目大五人格量表(TIPI-C)的信效度檢驗 中国健康心理学杂志, 21, 1688-1692.
- 李小豔 (2010). 大学生社会支持与孤独感的相關研究 医学与社会, 24, 4, 97-99.
- 李芸敏 (2006). 大学生孤独感結構研究 心理科学, 29(2), 465-468.
- 林修全・黄子傑 (2010). Rosenberg 自尊量表中文版条目 8 处理方法的再討論[J] 中国校医, 24(4), 263-265.
- 馬長征・朱琳 (2011) 大学生人際信任与父母教養方式的相關分析 大理学院学报, 10, 2
- 馬長征 (2011). 父母教養方式、人際信任与大学生交往焦慮的關係研究 現代人格心理学
- 諸井克英 (1987). 大学生における孤独感と自己意識 The Japanese Journal of Experimental Social Psychology, 26(2), 151-161.
- 諸井克英 (1989). 大学生における孤独感と対処方略 実験社会心理学研究, 29, 2, 141-151.
- National Health Commission of the People's Republic of China (2001) 中華人民共和國人口与計画生育法 (中華人民共和國主席令 第 63 号) <http://www.nhfdc.gov.cn/zwgk/falv/200804/4e297cf0fca04ca3a4edfcfba6662e92.shtml>
- 落合良行 (1987). 孤独感に関する実証的研究の現状 青年心理学研究, 17-24.
- 小塩真司・阿部晋吾・カトローニピノ (2012). 日本語版 Ten Item Personality Inventory (TIPI-J) 作成の試み パーソナリティ研究, 21(1), 40-52.
- 野口裕之・並川努・谷伊織・脇田貴文・熊谷龍一・中根愛 (2012). Big Five 尺度短縮版の開発と信頼性と妥当性の検討 心理学研究, 83, 2, 91-99.
- RJ Sisenwein (1965). Loneliness and the individual as viewed by himself and others, Columbia University.
- Rona Abramovitch・Carl Corter・Debra J. Pepler・Linda Stanhope (1986). Sibling and peer interaction : A final follow-up and a comparison[J]. Child Development, 57, 217-229.
- Rosenberg, M. (1965). Society and the adolescent self-image Princeton by Princeton

University Press.

- 関口洋美 (2001). 競争心に関する研究:競争経験と競争心との関係 日本教育心理学会第43回総会発表論文集, 255.
- 薩洛韦 (1999). 曹精華等訳, 天生反叛 浙江人民出版社, 23-24.
- 桜井茂男 (2000). ローゼンバーグ自尊感情尺度日本語版の検討 筑波大学発達臨床心理学研究, 12, 65-71.
- 染矢俊幸・高橋三郎・門脇真帆 (1996). EMBU 尺度 (養育体験認知に関する自己記入式調査票) の日本語版作成と信頼性検討 精神医学, 38, 10, 1065-.
- 田中道弘 (2007). Rosenberg の自尊心尺度 (Self-esteem scale) の再検討 (2) 日本心理学会大会発表論文集, 71 巻, 2EV010.
- 土屋友幸・吉田穰・本川渉・江見佳俊・黒須一夫 (1985). 小児患者の家庭環境に関する心理的考察 小児の出生順位と性格特性 小児歯科学雑誌, 23 巻 1 号, 11-25.
- 内田知宏・上埜高志 (2010). Rosenberg 自尊感情尺度の信頼性および妥当性の検討 東北大学大学院教育学研究科 58(2), 257-266.
- 梅垣武 (2003). Rosenberg Self-Esteem Scale の信頼性の検討 (人格, ポスター発表 D) 日本教育心理学会第 45 回総会発表論文集, PD34.
- van der Kaap-Deeder J・Vansteenkiste M・Soenens B・Mabbe E (2017). Children's daily well-being: The role of mothers', teachers', and siblings' autonomy support and psychological control Development Psychology, 53, 237-251.
- 王登峰 (1995). Russell 孤独量表的信度与效度研究 中国临床心理学杂志, 23-25.
- 王文婷 (2014). 高中生同胞関係与孤独感の關係:同伴關係の中介作用 [D], 魯東大学
- 向文慧 (2017). 淺談父母教養方式的影響因素 祖国, 9, 289.
- 肖莉莉 (2017). 父母教養方式对兒童影響的研究綜述 祖国, 2, 65-66.
- 辛自強・池麗萍 (2003). 家庭功能与兒童孤独感的關:中介的作用 心理學報, 35(2), 216-221.
- 薛文霞 (2007). 小学兒童自尊發展的特点及其与同伴接納的關係 社会心理学, 13(3), 69-75.
- 楊燁・王登峰 (2007). Rosenberg 自尊量表因素結構的再驗證 中国心理衛生雜誌, 603-605+609.
- 葉奕乾 (2011) 現代人格心理学, 上海教育出版社, 01.
- 依田明・深津千賀子 (1963) 出生順位と性格 教育心理学研究, 11, 239-246.
- 尹霞雲・寇天宇・黎志華 (2016). 童年期同胞關係对成年初期人際關係、生活滿意度的影響 研究湖南科技大学学報 (社会科学版) 19(5):182-185.
- 岳冬梅・李鳴皋・金魁和・丁宝坤 (1993). 父母教養方式:EMBU 的初步修訂及其在神經症患者的応用 中国心理衛生雜誌, 97-101, 143.
- 張傑 (2016). 大学生同胞關係及其对人際關係的影響 魯東大学全日制攻読專業碩士學位論文.
- 張麗華・楊麗珠 (2005). 3~8 歲兒童自尊發展特点的研究 心理与行為研究, 3(1), 11-14.
- 張雪麗 (2015). “单独二胎” 新計生政策下兒童同胞關係及相關因素研究, 四川医科大学.